

編集発行：山口県立大学同窓会桜園会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095
メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
印刷：(株)マルニ

Ouhokai - Kaihou

桜園会 会報

Vol.64

平成28年3月1日発行

新キャンパス現地見学会 平成27年12月12日(土)



看護棟にてキャンパス移転の説明



学部共通棟建設現場



新キャンパスの模型説明



建設現場を臨む

さやかに風も

桜島に

会長 福田 百合子



平成二十七年は、終戦七十周年という節目の年でした。その終戦の夏、桜島の学舎に入学した私にとって特別に思い入れの深い年でもあります。

現在の体育館あたりの運動場で草取り作業をしながら、敗戦のラジオ放送後の暑い陽射しに熱い涙と汗を流したのが、つい昨日のことのように思い出されます。

これが私の故里だ
さやかに風も吹いてゐる
心置なく泣かれよと
年増婦の低い声もする

あ、おまへはなにをして来たのだと……
吹き来る風が私に云ふ

中原中也詩集「山羊の歌」の中の作品「帰郷」の一節です。何をして過ごして来たのだろうとの悔恨と懐想の他に、現在への肯定と、未来へ

の曙光も感じさせる故郷の風景と心情が歌われています。中へはまた明治四十年「未成年」、羊の生まれでもあります。迷える子羊から、たくましい山羊への願望もあったのでしょうか。

平成二十八年は「申年」、猿の行動力、素早さを実践もし、期待しましょう。

大学キャンパス移転も急ピッチで進んでいます。一昨年の土砂災害の教訓を活かし、耐震工事の必要性から、設計変更にも迫られている現状です。

秋に突発したバリ同時多発事件に驚き、いろいろ深く考えさせられる事柄が多い年でもありました。身のさやかな出来ごとから、周囲へ、地域へ、そして国際的な事象、地球、宇宙へと思いは限りなく展開します。

桜んぼの実る頃、またお目にかかれ、語り合えることを楽しみに。

御身御大切に。ご挨拶まで。
(昭和23年国語卒)

キャンパス移転を契機とした

大学の魅力の向上

山口県立大学 総務管理部長 松永 正



全国の大学をめぐる動向は、

大学進学者が確実に減少する「二〇一八年問題」をはじめ、多くの国立大学による「地域貢献大学」の表明、公立化を目指す私立大学の増加など大きな変動が生じており、本学においても、減少する大学進学者をめぐって他大学との競争がますます激化することとなります。

実際に、山口県内においても、本学が独自に進めてきた「地域貢献大学」について、山口大学もこれを表明したこと、山口東京理科大学が私立大学から公立大学への移行を決定したことなど、具体的な変動が生じています。本学には、地域に直接出向き、地域と密接に結びついた「実践」という強みがあり、この積み重ねが本学の大きな魅力となっていますが、大学間の競争に打ち勝つためにも、

改めて将来に向けて自らの存在意義を問い直す時期に来ています。

このような状況の中、現在、国道バイパス北側では、平成二十九年四月の供用開始を目指して、学部共通棟と栄養学科棟の二棟について建設工事が進められており、学部共通棟は五階建て、栄養学科棟は三階建てとなっており、工事現場では、日々完成に向けて積み上げが進行しており、見るたびに、建物の枠組みから実際の校舎へと、着実に空に向かって変容しつつあります。

キャンパス移転は半世紀に一度の大事業であり、現在のような大学の変革期にあつては、これを大きなチャンスと捉えることができます。ハード面では、キャンパス移転により、真新しく、快適かつ安全な学び舎を提供することにより、将来の本学の魅力の向上、イメージアップにつながることでありますが、このためには、早期の全面移転が不

可欠です。

本学としては、ソフト面では、本学が独自に培ってきた魅力を更に向上させることと併せ、ハード面においては、平成八年に看護棟、講堂（桜園会館）が整備されて以降、今回ようやく再開したキャンパス移転の動きを止めることなく、学部共通棟、栄養学科棟の整備に引き続き、早期に全面移転に向けた施設整備が実施されるよう、県に働きかけていくこととしておりますので、桜園会の皆様には、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



建設中の学部共通棟

祝 創立75周年

記念誌を発刊します！

創立75周年記念誌発行準備委員会 委員長 稲田 秀雄

本学は、昭和十六年に「山口県立女子専門学校」として開学して以来、「山口女子短期大学」、「山口女子大学」を経て歴史を積み重ね、多くの若い人材を育成・輩出し、地域の元気の創出に貢献し続けてまいりました。

そして、今年、創立七十五周年を迎えることとなりました。

この大きな節目に当たり、現在『山口女子大学五十年史』に続いて本学の記録を刻み、後世に伝えるため、創立七十五周年記念誌を発行することを企画し、編集作業を行っているところです。

内容は、五十年までのあゆみを簡潔に振り返るとともに、以降の各年の主な動きや出来事を中心に、学部の変遷、大学の今の取組、同窓生の活躍などを紹介していくこととなります。

この間には、男女共学化、大学院設置、公立大学法人化などの大きな変革があり、また、国際的な学術交流や地域

との連携等での進展も見られました。

さらに、同窓会の方々とは、本学のシンボルとなる桜の森プロジェクトをはじめ、十年毎の周年行事、毎年の講演会の共催、学生の支援等を行うための「さくら森夢基金」の創設など、車の両輪として協働してまいりました。

全体の体裁は、『五十年史』のように丁重にはまいりませんが、写真等を多用したビジュアルな冊子になる予定で、発刊は、本年の開学記念日である五月十五日を目標としています。

配布につきましては、申し訳ございませんが、三月からスタートする寄附促進キャンペーン中に一定額（五千円）以上の御寄附をお申し込みいただいた方に贈呈するという方法にさせていただきます。

皆様のご支援のほどよろしくお願いいたします。

地域の元気は知的好奇心から 「地(知)の拠点整備事業」の展開

山口県立大学附属地域共生センター 所長 加登田恵子



二〇三年の秋に文科省から採択されたCOC事業も、いよいよ三年目に入りました。

共生教育プログラム「桜の森アカデミー」では、大学生と地域住民が所定の講座を修了すると、

学長より「マイスター」の称号が付与されます。2期終了した段階で「やまぐち学マイスター」(十九名)、「子育てマイスター」(十三名)、「在宅ケアマイスター」(四十名)が誕生しました。中には、古希を超えてもなお知的的好奇心旺盛な先輩が、晴れて「やまぐち学マイスター」を取得されるなど、現役大学生も負けてはいられないと大いに刺激を受

けました。「在宅ケア」では、ご家族のケアをより適切にしたい方や、将来の自分の老後に備えて知識を得たい方などが、非常に熱心に系統的な知識とスキルの獲得に励まれています。「子育てマイスター」を取得された皆さんは、新たにサークルを結成し自主的活動を開始されました。修了レポートでは、「桜の



平成26年度 桜の森アカデミー修了式(山口県旧県会議事堂)

森アカデミー」という学びの場が、いかにお一人おひとりの元気を引き出したかや、和気あいあいとした雰囲気の中で、年齢を超えた学習仲間が出来た喜び等が熱く語られ、スタッフ一同感動しています。

共生教育プログラムでは、三つの総合研究チームを立ち上げて山口県の地域活性化の課題に取り組んでいます。十二月四日には、先年大ヒットした映画「テルマエ・ロマエ」の武内秀樹監督をメインゲストに迎え、「温泉」をキーワードに、COC地域活力創生フォーラムを開催いたしました。これからも続々、健康ライフイノベーション・新やまぐち学、それぞれテーマとしたフォーラムを県内で一般公開する予定でおります。卒業生の皆様も是非とも好奇心を持ってご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

恒例の「大学と桜園会との情報交換会」が五月十六日と十一月五日に開催された。

五月の情報交換会では、江里健輔理事長から、さくらの森夢基金でマイクロバスなどを購入したこと、外部資金を獲得するシステム作りに取り組んでいることなどの報告があり、大学の発展のためにご支援をお願いしたいとのご挨拶があった。

大学から、①大学の取組・近況報告、②第二期施設整備、③さくらの森夢基金に関する報告があった後、質疑応答が行われた。会員からは、「卒業生が再チャレンジできる大学であってほしい」や「公開講座などの受講の際に託児のシステムがほしい」などの意見がでた。

最後に、長坂祐二学長から、学生が本学に誇りをもつための取組として、一年生全員が受講する「キャンパスライフ入門」において、福田百合子会長と本

平成27年度 大学との情報交換会

学の歴史について対談を行ったとの報告があった。

十一月の情報交換会では、大学から、①さくらの森夢基金でプレイスの楽器などの購入、②七十五周年記念誌の編集、③新キャンパスの現地見学会の開催、④基本設計の図面の見直しという予期せぬ事態の発生などについての説明があった。その後質疑応答が行われた。会員からは「大学事務局に卒業生からの連絡窓口を設けていただきたい」や「学生と桜園会会員とが一緒になって地域貢献ができるしくみを考える必要がある」などの意見がでた。

母校の発展のために、情報交換会を行うなどとして大学とも大学への協力、支援を行いたい。

(昭和54年国文学科卒 安光記)

人事異動

■退職

青木 邦男	社会福祉学部教授
三島 正英	社会福祉学部教授
赤羽 潔	社会福祉学部教授
志村 哲郎	社会福祉学部教授
山本佳代子	社会福祉学部准教授
林 亜由美	社会福祉学部助手
田中 愛子	看護栄養学部教授
島田 和子	看護栄養学部教授
小野本ヒロコ	別科助産専攻特任教員
尾川 満宏	学生支援部生活支援グループ助教

■新任

西脇 靖洋	国際文化学部准教授
渡邊 滋	国際文化学部准教授
セネック・アンドルー	国際文化学部助教
増田 公香	社会福祉学部教授
廣田 智子	社会福祉学部講師
岩崎 絢子	社会福祉学部助手
岡崎いずみ	社会福祉学部助手
大野 正博	看護栄養学部准教授

■事務局職員転出

渡邊 昭博	県への復帰
伊藤 幸代	県への復帰
木下 拓之	県への復帰

■事務局職員転入(・法人採用)

伊藤 泰子	学生支援部副部長
中原 克己	企画グループリーダー
大西 徳生	人事グループリーダー
・米元 花歩	企画グループ主事
・刈屋留美子	人事グループ主事

平成二十七年 桜園会総会開催

平成二十七年五月十七日(日)ホテルニュータナカにて、第七十二回桜園会総会が開催されました。当日は、一四〇名が参加されました。

福田会長の「皆さまと二緒に、今日の総会を開催できることを有難く、そして嬉しく思います。」との挨拶、そして長坂名誉会長の「地域貢献できる学生を育成するために、これからも支援をお願いしたい。」とのお言葉から会が始まりました。



続いて「長州を新たな角度から見てみよう!」と題して、国際文化学部教授シヤルコフ・ロバート先生の講演。二方通行の情報発信ではなく、参加者との会話を加えた「参加型講演」でした。最初にゲームやアメリカ滞在研修中の体験から作られたクイズを行いました。その中で、本場の日本は正確に伝わっていないことや、体験を通して本物を伝えると喜ばれるということを知りました。更に「長州」のイメージを参加者が挙げていくことで、山口を再確認できました。「山口は伝統的な建物や行事など本物の日本が多く残っている。本物にふれると関心を持つようになるので、体験してもらうことは重要だ。ストーリーを重視し、現代の人がわかる言葉で伝えることが、長州の再発見のきっかけに繋がる」という言葉が印象的でした。

レクリエーションは、県大吹奏楽団BLAZERが「麦の唄」「Let It Go」等の今年らしい曲を演奏しました。中でも「ようかい体操第一」では曲に合わせて体操をして、大変盛り上がり、締めくくりは、学生歌を全員で合唱しました。会場が一つになり、心温まる会となりました。

(平成17年大学院修了 山崎記)

平成28年度 桜園会第72回総会のご案内

総会

■日時
平成28年5月22日(日)
午前10時〜午後2時

場所

ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL 083-923-1313

フォーラム

■テーマ
県立大学と男女共学化20年
― 学生生活、卒業の歩み、
そしてこれから ―
(パネリスト)
田中 周平
(H12看護学科卒)

竹永 吉伸
(H14社会福祉学科卒・H24大学院修了)

松浦奈津子
(H15国際文化学科卒)

船崎美智子
(H18大学院修了)

会費

5,000円

当番幹事はS45・50・55・60・H2・7・12・17・22・27年卒業のクラス幹事さんです

*出席ご希望の方は、5月13日(金)までに同窓会事務局までお知らせ下さい。

平成26年度桜園会会計収支決算書 H27.4.17(単位:円)

科収	目入	26年度決算額
繰越金	入会費	2,883,521
経常部	会費	3,817,000
本部	入金	5,331,182
事業	負担金	850,000
雑	収入	279,297
合	入計	13,161,000
支	出	
総	会費	955,081
会	費	386,340
支	助費	1,149,320
会	成費	1,392,251
公	座費	142,669
開	費	241,124
講	賞	0
座	費	359,800
の	品	193,906
森	費	1,610,314
育	費	117,591
成	費	25,920
事	費	2,535,248
業	費	200,000
費	費	97,200
用	費	59,152
途	費	187,330
支	費	85,558
出	費	0
金	計	9,738,804
次	金	3,422,196
年		
度		
繰		
越		

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

◆桜園会本部経常会費納入(年間2千円)をお願いいたします。
*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。終身会費は一括払いで1万5千円です。

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。
通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書き下さい。
*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口
山口県立大学同窓会桜園会事務局
住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時~17時)
E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
山口県立大学のホームページからもアクセスできます。
(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。



桜園会第36回公開講座 山口県立大学全学特別講義 「脳の謎を科学で解明」

男女や年齢でこんなに違う感性

株式会社リサーチ 代表取締役 黒川伊保子

平成二十七年十二月十二日(木) 黒川伊保子氏を講師にお迎えして公開講座が開催された。先生は、脳の構造は、性別や年齢で違う意識の質を持っていることを脳科学の見地から研究され、感性アナリスト(分析家)の第一人者である。脳を一つの装置と見立てると何が見えてくるか。①男女のミゾ、②人生の波、③時代の風、④ことばの魔法が見えてくる、として、①③について講演された。

①男女では脳の回路構成と信

号特性が大きく違う。女性脳は脳梁(右脳と左脳をつなぐ神経繊維の束)の太さが、男性脳より二〇%太く、左右の連携が頻繁に行われる。そのため、目前のモノをつぶさに観察し、わずかの変化も察知して、脳の二次処理領域にある過去何十年分もの関連記憶を瞬時に臨場感をもつて想起することができ。これは長年の子育てによって培われた資質で、子供の危険を察知するや、一瞬の内行動に移す臨機応変力が高いのもこの故。一方、過去の不平不満を再三蒸し返すのもこの故。よって男性諸氏は、真摯にあやまるほかないとのこと。

それに比べ男性脳は、脳梁が細く左右の連携は悪いが、各々の機能を徹底して使う。空間的に全体を認識するので構造型の解力が高い。結論からものが言え、責務遂行、死ぬまで頑張り戦う。髪型を変えても気付かぬが、目前の異性の粗探しもしない

いのは、立派な男性脳の証拠と心得、諦めるのが肝要。(思い当たるフシ多く、納得、反省、感謝の笑い声あちこちに)

②二十八歳迄は多くの情報を仕入れ、キープする力。単純記憶力の時代。三十代でそれはピークを過ぎ、失敗も多い混迷期。しかし、この失敗が五十代で物事の本質、人の資質を見抜く力。連想記憶力の基となり、五十六歳でピークに。この後もこの状態は続き、人生の真髄を達観する成熟脳に達し、八十年代九十年代まで持続できる。(学生達若者には意欲を、高齢者にも明るい見通しを頂いた)

③魔法の数字7。ラッキーセブン、虹の七色、週七日制。仏教でも初七日、二十七日。人は7という数字に完全性、一巡性を感じる。車やファッション等、二十八年で真反対の状態になり、五十六年で元に戻る、と興味深いお話は尽きることなく、まさに立板に水。内容濃く熱意あふれるご講演に只々感服。どんな脳をお持ちなのか、解明したくなりました。

(昭和43年国文学)

熊本記

追悼 河村太市先生を 偲んで

国広 勝代



本学の名誉教授である河村太市先生は、四年制の山口女子大学文学部長の役職に就任され、昭和五十七年から六十年間に亘り、附属幼稚園長として「福祉の心を育てるための保育を考える」というテーマの研究リーダーでした。附属幼稚園の記念誌「四十七年の風景」から河村先生のお言葉を引用します。「福祉の心は二十一世紀が求める最も重要な人間的資質であり、それはまた幼児期から

培わなければ本物にならないことが確信されるものでした。(中略)昭和六十年には全国発表の機会を得ましたが、その際文部省の教科調査官から「発表を聞いて喜びにたえない」との評を頂戴し面目を施しました。」とあります。吉田松陰研究をはじめ、米寿を迎えられた二〇一四年には『滝鶴台と妻竹女』を出版される等、ご自宅の広い書庫には本が堆く積まれ、生涯にわたって学究的に過ごされた様子が覗われました。「この写真が大好きだったんですよ。」とおっしゃって奥様が応接間に飾られたパネル版の写真を見せてくださいました。それは、運動会のページェントで園長先生を取り囲んだたくさんの子どもたちに向けられた先生の慈愛に満ちた笑顔でした。今もこれからもきっと私たちみんなを見守ってくださることでしよう。

(昭和41年保育卒)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職 永有 見井 右一 H8.9.24
旧職 志村 照郎 H26.11.15
旧職 木村 哲 H27.7.13
旧職 坂村 基 H27.9.5
旧職 河村 太芳 H27.10.4
旧職 伊藤 枝宏 H28.1.31
旧職 藤竹 真

◆会員

S29 服部 香 H21.7.21
S33 保育 幸子 H24.12.4
S19 国文 子 H25.1.1
S22 養護 治子 H25.5
S25 被服 芳子 H25.10.30
S25 育児 廣子 H25.12
H9 国文 知子 H25.12
S23 国語 伊藤 幸子 H26.4
S23 育児 榎谷 文子 H26.9.8
S24 国語 中 由子 H26.9.9
S22 養護 市川 昌子 H26.11.23
S38 被服 渡辺 邦子 H26.11
S24 国語 山 栄子 H26.12.6
S31 被服 藤森 由紀 H27.1.2
S26 食物 角 敏子 H27.1
S36 保育 和田 江枝 H27.2.17
S24 国語 小坂 弘子 H27.2.21
S25 育児 本 公則 H27.3.19
S28 食物 吉 公則 H27.3
S45 国文 永谷 清子 H27.9.23
S33 保育 山 清子 H27.11.11
S28 食物 濱野 淳子 H27.12.19
S25 生活 高松 幸子 H28.1.25
S19 家事 K.N.S
S26 国文 江本
S41 被服 水上

第15回 功労賞

あゆみ

福澤 道子

図らずもこの度、桜園会功労賞を受賞して、感慨一入で心よりお礼申し上げます。

卒業後、厚生省国立病院に勤務し、S53年基幹施設国立福岡東病院、初代栄養管理室長に赴任。栄養委員会（副院長他25名）、患者同盟会等とデイビートを重ねて、複数献立、行食事等を改善した。

S51年、桜園会福岡支部創設副支部長として、規約改正を行う。その後、支部長就任、市近郊、

筑豊、筑後地区の多数未加入者の調査整備し、会員名簿作成、全員に配布。

「支部だより」を継続、名誉支部長を引継ぎ「生涯学習会」導入、H29年に支部四十周年を迎える当会の充実発展を会員と共に推進し、今日に至る。

病院業務の傍ら、S50年日本栄養士会、社会法人福岡支部長就任、会員の資質向上のため、研修会の数を重ね、病態栄養改善に寄与した。

なお、社会貢献として、福岡市医師会、九大医師及び市勤務医師の連携を計り「市民糖尿



病教室」を開催した。講義の後に、希望者に医師の症状診断指導、並びに栄養指導を行い好評を得た。当会は継続した。

なお「県民健康展」を開催、その後「日本糖尿病週間展」を実施して、市民の健康意識向上に寄与した。

関係各位並びに会員の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

(昭和29年食物卒)

第十五回桜園会賞 受賞報告

彩絵具の混色練習による色彩感覚です。

組み木は、一枚板を糸鋸で分割して作るので、パズルの要素もありますが、それぞれが物の輪郭線であるため取り出しお話をしながらレイアウトを楽しめます。

デザインを描く時、一番重要なのが隣り合う一本の線、「共有線」です。「サルと風船」では兄弟の背中。風船と顔の線。線の引き方次第で片方が太れば片方が痩せる。共有線がうまく引ければどちらも活かされますがその反対もあり。人間関係においても然り。作る側と使う側。家族

第15回 功労賞

共有線を楽しむ

守重シゲ子



この度、桜園会功労賞をいただき恐縮しております。劣等生だった私が三十五年後、表彰式に出席するため大学を訪ねる事になろうとは。

私は、育児期に油絵から木のモチーフに興味に移り、その後組み木のデザインと国産材によるおもちゃ作りを始めました。その基礎となしたのは、故岩田彌富先生の「子供の時から本物を！」という教えと水

や職場。今回の受賞により同窓生、先輩方との共有線も再認識し、より一層精進していきたいと思えました。ありがとうございました。

最後になりましたが、母校と同窓生の益々のご発展を念じ上げ、お礼のご挨拶と致します。

(昭和55年 児童文化 学部卒)



第1回 学生賞

学生賞を受賞して

「ツナグ。」代表 磯崎 歩

この度は桜園会学生賞をいただき、大変嬉しく思っております。私どもは、東北の支援をしたいという思いを持ったメンバーです。加登田研究室の先輩方が行われていた活動を中心に「今の東北を山口に伝え、風化防止と防災意識を高めていきたい」という思いで、山口市中央商店街を中心に県内の多くのイベントや県内高校の文化祭へ参加させていただき、東北の郷土料理の振舞いやパネル展示などを行って行く中で、東北と防災の輪を山口に広げる活動をしてまいりました。昨年度の夏には、メンバーと東北を視察し、報告会や防災セミナーを行いました。現在はこれまでの活動から得た、メンバーそれぞれの想いを達成できるよう取り組んでいるところです。

今回この様な素晴らしい賞をいただいたのも、加登田先生はじめ多くの方々のおかげと感謝しております。今後もお支え頂いた方々の想いを大切に活動していきたいと思っております。(社会福祉学科3年)



第1回 奨励賞

奨励賞を受賞して

大田 舞



この度は桜園会奨励賞を頂きまして誠にありがとうございます。幼い頃からファッションに興味を持ち、大好きな服飾デザインを山口県立大学とフィンランド国立ヘルシンキ芸術デザイン大学(現:アールト大学)大学院にて学び、現在デザイナーとしてフィンランドを拠点に活動しております。粘り強く最後までやり遂げる精神力は学生時代に身に付けた事の一つで、今現在仕事をする上でも大切にしています。ここ数年ではフィンランドや日本で様々なプロジェクトに関わらせて頂ける機会が増え、刺激の多い日々を過ごしております。今後もデザイン、そしてファッションを通じてたくさんの方々と繋がれるよう、常に行けるかを問いかけながら初心を忘れずに新たな挑戦をしていきたいと思っております。日本に帰国する際には先生方や現在の学生さん達とお会いできるのを楽しみにしています。沢山の良い成果を出せるようこれからも精進して参りますので、今後とも応援いただけますと幸いです。(H15年環境デザイン学科卒)



山口県立大学PR用ノベルティーデザイン

会員近況報告

アフリカで子育て

山仲 秀子

私は夫の二回の海外赴任に娘三人と同行しました。最初は南アフリカ共和国ケープタウンに二九七八年から四年、日本に三年いて八五年からスペイン領カナリア諸島ラスパルマスに三年滞在しました。ケープには日本人学校がなく、日本人の子どもさんが通っておられたカトリック系女子校、ラスでは長女はアメリカカスクール、次女三女はプリティシユスクールにしました。

学校になじめるだろうか、言葉はと心配しましたが、学校、友達に恵まれ、また娘たちも努力をし、落第もせず徐々に楽しい日々となりました。

しかし、常に帰国後の学力が心配でした。夕食後はいつも海外子女教育財団から送られて来る通信教育でした。百人一首、唱歌を歌うなどしました。

終わつてみれば、長女は慶応大学から銀行勤務後専業主婦になりロサンゼルスに滞在中、次女は国際基督教大学から外資系銀行勤務の共働き、三女は国際基督教大学大学院を経て研究所の翻訳業務に従事し、共働きです。

日本と比べ格段に厳しい治安の中、無事に過ごせた事を嬉しく思いますと共に、異国での子育ての中、保育科で学んだことを心強く思いました。

(昭和37年保育卒)



アフリカ在住の頃の三姉妹

会員近況報告

山口から望む世界
世界に通用する
made in JAPAN

竹部 徳真

木の表面から零れおちる、たおやかな灯り。樹齢百年を優に超える素材の時間と歴史を木の顔である木目とおとして表現します。再び素材に込められたいのち。木をとおして全てのこれまでとこれからを作品から感じて頂けたらと思います。私、竹部徳真(たけべとくま)は木工作家として、現在山口市を拠点に国内外で活動しています。山口の県木アカマツを極限まで薄く削り出し、中に光

源のひかりを透過させるアーランプ零れ日(KOBOREBI)を主に、花器やオブジェなどを制作しています。やまぐちブランド第七十七号登録、二〇一五年ミラノ国際博覧会出展、経産省 The Wonder 500認定。山口という自然と歴史あふれるこの街をきっかけに多くの縁を頂いております。今年度は海外での展示や販路開拓をさらに進め、山口から世界に通用する made in JAPAN に力を入れたいと思います。

地方から世界へ。そのエネルギーをもって、地域貢献に少しでも関わることが出来るものづくりができたらと思います。まだまだ若手作家ですが、一生懸命に進んでまいりたいと思っております。どうか応援して頂けないでしょうか。何卒よろしくお願いたします。

(平成24年大学院修了)



平成二十七年五月十六日

(土)、ホテルニュータナカに於いて、第二十回桜園会支部長理事合同会議が開催されました。出席支部は十九支部(県外八支部・県内十一支部)、本部からは理事十七名が出席し、活発に情報意見交換が行われました。

まず福田会長のご挨拶の後、国広理事の司会進行により各支部より近況が報告されました。

多くの支部が毎年又は二年毎に支部総会を開催し、会員同志の交流を深めておられます。

しかしながら、支部総会への出席者が減少傾向にあり、特に若い方の出席が少ない事が各支部の問題となっているようです。これから若い方に関心を持っていくのが大きな課題の一つのようです。

第二十回 支部長理事合同会議報告

うです。

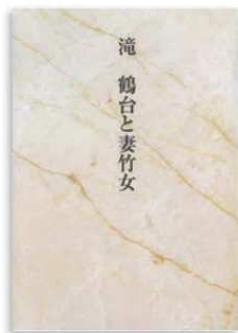
各支部では、魅力的な会となり多くの会員に出席していただけるよう、開催時期や場所、内容の検討、近隣支部との合同開催などいろいろ工夫をされ、熱心に取り組まれています。

又、多くの支部で役員交替がなかなか難しいようですが、皆様協力して後任を見つける努力をしておられます。そんな中で若い男性会員が支部総会に出席し更に役員も引き受けて活躍されているという嬉しいお話もありました。

これから、若い方の参加も得て、支部活動がもっと充実、発展していくためにも、情報を共有できるこの会が、大きな役割を果たし力となる事と思えます。

(昭和51年被服卒 岡村記)

■新刊紹介■



『滝 鶴台と妻竹女』
河村太市 著

(山口県立大学名誉教授
榎マル二(非売品)



『ふうわり』
江島その美 詩
NOHE GALLERY (1,800円)



今年五十七回を 迎えます

関東支部長 岩本 敦子

関東支部総会は毎年、紫陽花の時期に開催されます。代々の先輩方のご尽力により、受け継がれてきた総会は、今年六月の開催で第五十七回を迎えます。

昨年の総会は、五十七年卒の先輩方が幹事を担当してくださいました。出席者一〇三名規模で開催され、長坂祐二学長、福田百合子会長、片山弘基先生もご出席いただき、講演は山口県出身のアナウンサー山根基世さんでした。

学長からは、現在の山口県立大学の様子や、地方で生き残る大学を目指すというお話がありました。遠い関東で大学の情報が少ない中、学長の心強いお言葉はとても頼もしく、いっそうの発展をお祈り致しました。

百合子先生からも、楽しいエピソードや、美しい歌声も頂戴致しました。山根基世さんの、にこやかなお顔に張りのあるお声での、経験に基づいた数々のお話は、とても素晴らしく有意義なものでした。そして、私達五十八年卒が新幹事となり、この総会を取材した支部だよりを、関東の皆様にお届け致しました。

さて、これからが今年の総会企画の始まりです。脚本家福田

靖氏もお迎えして、楽しいひと時となるよう尽したいと思えます。今年も関東支部に、美しい紫陽花が咲き揃いますように。
(昭和58年国文学科卒)



岩国支部の活動

岩国支部長 友田 芙美

岩国支部は、創立当時の役員の事情で、一時開店休業の状態でしたが、平成十九年に、上田、藤村両氏が再び立ち上げられ、以後順調に活動が続いています。

昨年は、支部総会を十月三日(土)に開き、横山正博先生(社会福祉学部教授)の講話を拝聴しました。会員及び会員の家族、知人に認知症の介護について関心の深い方が多く、このことに関する講話をお願いしました。「忘れても幸せに暮らせ

る地域作り」—認知症高齢者を支える、支えられる—と題され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を話し、認知症について正しい理解を互いに持たなければと強調されました。当日は、支部会員のほかにも、会員の知人、介護施設の指導者など数名も聴講され、「実りのある話を聴かせて頂いた。」と感謝の電話がありました。母校の宣伝の一助にもなったのではと喜んでいきます。

また、近隣の柳井、広島支部からも四名の方が参加され、総会に花を添えて下さいました。同窓の絆の深まりを実感したところです。
三月には昼食会を開き、新年度の活動を相談することになっています。
(昭和33年食物卒)



桜園会支部リスト (平成28年1月現在)

支部名	支部長名	支部会員数(名)
関東	岩本 敦子 (国文58)	820
東海	菱川 苑子 (食物40)	147
近畿	中島 久実 (食物46)	700
広島	小田 隆江 (被服43)	688
四国	村松 幸子 (食物35)	329
北九州	岩井 啓子 (国文48)	466
福岡	永野 ひろ子 (食物45)	461
佐賀	松林 郁子 (児文62)	139
大分	栗屋 文世 (国文44)	289
岩国	友田 芙美 (食物33)	255
柳井	正井 眞由美 (食物49)	237
下松	小田 玲子 (児文56)	346
徳山	藤井 由美子 (国文45)	404
防府	相本 裕子 (食管61)	500
山口	松崎 貞子 (保育45)	1,540
萩	藤井 郁子 (国文47)	176
長門	阿波 昌子 (被服33)	138
宇部	池田 博子 (国文49)	827
小野田	竹内 典子 (児文60)	190
下関	大原 英子 (保育51)	514

(平成27年度支部会開催報告)

開催日	支部名	本部からの出席
27年 4月26日	山口支部	長坂祐二学長/福田百合子会長
27年 6月 7日	北九州支部	藤井哲男事務局長/小橋圭介先生
27年 6月 7日	福岡支部	長坂祐二学長/竹永吉伸理事
27年 6月 7日	下関支部	草平武志社会福祉学部長/土田敏子理事
27年 6月14日	萩支部	福田百合子先生/長坂祐二学長 長門支部
27年 6月20日	関東支部	長坂祐二学長/福田百合子会長
27年 6月21日	近畿支部	藤井哲男事務局長/水谷由美子先生/安光裕子理事
27年 6月28日	小野田支部	中村仁志看護栄養学部長/金恵媛先生/乃木章子理事
27年 7月 5日	宇部支部	藤井哲男事務局長/田村洋先生/土田敏子理事
27年10月 3日	岩国支部	藤井哲男事務局長/横山正博先生/宗内恵美子理事
27年11月 1日	東海支部	長坂祐二学長/安光裕子先生
27年11月15日	下松支部	藤井哲男事務局長/田村洋先生/乃木章子理事

編集後記

母校もいよいよ増築工事が始まり、巨大なスクリーン三機、空にも届くばかりです。

折しも開学七十五周年を迎え、記念誌には桜園会の歴史や折々の活動も掲載されております。懐かしい光景思い出しながら、母校の更なる発展を共に願っていきたく思います。

昨秋公開講座の折、講師の先生に、会員の淹れたお茶を大層お褒め頂きました。杯のお茶に注ぐ心の有り様、同窓生に受け継がれた宝として、記念誌に残したいほどでした。

(熊本記)